



SPRING GAME 6th 2025年6月15日(日)K.O15:15 天候:晴 場所:アミノバイタルフィールド

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
中央大学RACCOONS	0	3	0	6	9
明治大学 GRIFFINS	0	7	10	10	27

**1Q**

明治のキックで試合が始まると、中央オフェンスがテンポよく進み、自陣25ヤードまで攻め込まれる苦しい立ち上がり。

しかし、ここで#9関(2年生)がQBサックを決め、ボールがこぼれると#43大村(3年生)がすかさずリカバー。

ディフェンスの連携でピンチをしのぎ、先制点を許さない。

続く明治オフェンスは、相手DLの多彩なパスラッシュに苦戦。ポケットが崩され、思うように展開できない。

重たい空気の中で光ったのは再びディフェンス。

#39北本悠里(2年生)が読みの鋭さを見せ、パスをインターセプト。

二度のターンオーバーで流れをつかみ始めた明治が、徐々に主導権を握っていく。

**2Q**

流れをつかんだ明治オフェンスは、2Q最初のシリーズでランとパスが噛み合うテンポの良い攻撃を展開。

着実に前進し、ゴール前10ヤードまで迫ると、ここでも下級生が存在感を示す。

#37木村(2年生)が鮮やかなステップで敵LBをかわし、タッチダウン。

先制点を挙げ、勢いはさらに明治へと傾いていく。

続くシリーズではディフェンスが再び奮起。

#50水野(3年生)が鋭いパスラッシュでQBサックを決め、流れを渡さない。

しかし中央も反撃に出る。ロングパスとQBのスクランブルにより自陣15ヤードまで攻め込まれるが、

ここで#0白岩(4年生)が意地のサック。失点を3点にとどめ、最少失点で切り抜けた。

グリフィンズ6戦目は、中央大学RACCOONS。





3Q

後半、明治オフェンスは#47小山田(3年生)の力強いランアフターで一気に55ヤードをゲイン。  
流れを決定づけるビッグプレーで一気に敵陣深くへ攻め込む。  
エンドゾーン目前ではキックを選択し、#10田村勇(4年生)が冷静にキックを決めて加点。  
後半の立ち上がりを理想的な形でスタートする。  
続くディフェンスでは#9関のロスタッカルも飛び出し、3プレーで中央の攻撃をシャットアウト。  
勢いそのまま迎えた次のオフェンスシリーズ、#18杉崎(4年生)への25ヤードロングパスが通り、一気に敵陣へ侵入。  
さらに#15新楽(4年生)のスクランブルでゴールに迫ると、最後は#88田原(3年生)がタックルを振り切る力強いランアフターでタッチダウン。  
点差を広げ、最終クォーターへと突入する。



4Q

最終クォーター、中央大学オフェンスが意地を見せ明治は42ヤードのロングパスを許してしまう。  
しかしここでディフェンスが粘りを発揮。要所をしっかり押さえ、無失点でシリーズを終える。  
ピンチを切り抜けた直後のオフェンスでは、#18杉崎(4年生)が22ヤードの好ゲイン。  
さらに#88田原(3年生)への確実なパスで敵陣へ進入し、最後は#10田村が再びキックを成功させ、着実に3点を追加する。  
続くディフェンスでは、中央のギャンブルプレーを冷静に止め、オフェンスへ好位置でボールを渡す。  
その流れを逃さず、#15新楽(4年生)が43ヤードのスクランブルを決めるビッグプレー。  
明治の勝利を大きく引き寄せる得点となる。  
試合終盤、ディフェンスは最後のシリーズでロングパスから6点を失うものの、試合はそのまま終了。中央戦を勝利で締めくくった。





◆中央大戦を振り返って

中央戦にて、選手にインタビューを実施しコメントを頂きました。ご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました

◆インタビュー #47 小山田匠吾 (FB)



■中央大学と対戦した印象。  
スカウティング通りのディフェンスでした。

■中央戦の反省  
中央大学戦ではラン、パスどちらも相手のDL陣に崩されてしまった印象があります。自分達のユニットとしての完成度の低さを感じました。

■次戦への意気込み。  
次戦では後輩達がたくさん出場します。自分のプレーで後輩達にいい流れを持っていけるように、頑張ります。

◆インタビュー #95 池田響 (DL)



■中央大学と対戦した印象。  
重いOLが揃ったランチームだという印象でした。

■中央戦の反省  
ダブルチームなどで押されてしまい中ランを止めるに貢献できなかった。

■次戦への意気込み。  
次戦では中ランを止めるという中DLの1番の役割を果たすために一对一にこだわって相手OLに勝ち切ります。

◆インタビュー #88 田原和春 (TE)



■中央大学と対戦した印象。  
DLのパワーやスピードがすごく思い通りにオフェンスを進めるのに手こずった。

■中央戦の反省  
カバーに対してブロックする対象を冷静に判断できなかった。

■次戦への意気込み。  
全てのプレーを全力でやりきり、TEらしくランでもパスでも相手を圧倒します。



## ■次戦

2025年6月29日(日) 14:00 K.O. アミノバイタルフィールドで専修大学との対戦です。

春シーズンの締めくくりとなる試合として、全試合を通して培ってきた攻守の完成度を示す絶好の機会。特に春オープン戦の序盤～中盤で見えた課題をどう克服していくか注目です。

専修戦への勝利にむけて、試合会場をネイビーカラーで埋め尽くしましょう！  
**GRIFFINS**を皆様の熱い応援でサポートしましょう！

**Go ! GRIFFINS.**